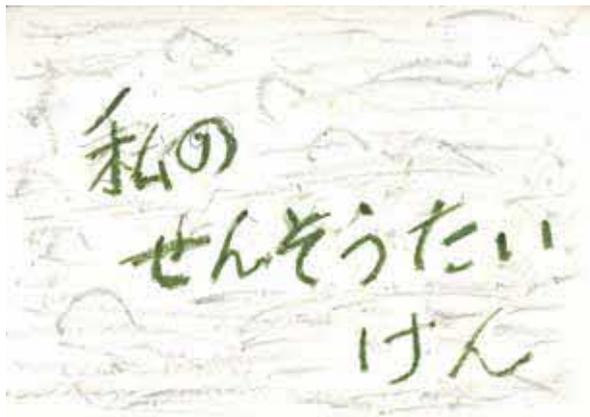


平和を願う想いをかたちに  
—戦争体験を描いた紙芝居—

現在の香里ヶ丘一帯にあった香里製造所をご存じでしょうか。

香里製造所は日中戦争が激化した昭和14年（1939）、増大する火薬の需要に応じるため宇治火薬製造所香里工場として開設されました。工場の稼働に伴い、多くの工員が必要となったため、工員寮も建設されます。工員の募集は枚方周辺や京阪沿線にとどまらず、遠く四国・北陸にまで及び、さらに学徒動員も行われました。昭和17年、香里工場は東京第二陸軍造兵廠香里製造所として独立します。ここでの主な作業は、宇治製造所から送られてきた湿った状態の火薬を乾燥させ、砲弾や爆弾に詰めて完成品に仕上げることでした。

昭和18年に大阪府立泉尾高等女学校23期生として入学した森田隆子さんも、香里製造所で学徒動員を経験した一人です。



隆子さんは、戦後60年を機に「学徒動員の体験を伝え、残したい」という思いから、自身の戦争体験を紙芝居にし、大阪府内の小学校で児童に平和の大切さを伝える活動を始めました。今回はその紙芝居の中から、香里製造所での仕事や暮らしが描かれた場面を紹介します。なお、この資料は隆子さんの夫の康夫さんから市史資料室へご寄贈いただいたものです。

右の絵は香里園駅から製造所に通う人々を描いたものです。隆子さんの呼びかけにより、香里製造所に学徒動員された大阪府立泉尾高女・市岡高女、私立明浄高女の方々が当時の体験を書き綴った『女学生の戦争体験』（平成19年、日進精版印刷）には、12時間労働の二交代制という過酷な勤務や、多くの女学生が寄宿舎の大部屋に入り、一人一畳ほどで寝泊まりしていたことなどが記されています。





左の絵は高さ1.5メートルほどの1トン爆弾に、黄色の硫黄火薬を詰める作業の様子です。この作業により、顔や手足の爪まで黄疸のように真っ黄色になり、火薬で皮膚が腫れたり、呼吸器を痛めたりと、健康への深刻な影響もあったようです。

1トン爆弾に火薬を3分の1ほど詰め、弾がガタガタと揺れないように隙間に木綿を入れ、箱詰めを行いました。右の絵は、箱詰めした爆弾を大八車に載せ、空から見えにくい山の地下倉庫に運ぶ様子ですが、3人がかりの大変な作業だったようです。



香里製造所内部の様子がわかる資料は少なく、写真などは残っていません。この紙芝居は、製造所内部の様子や工員の暮らしを知るための貴重な資料です。

隆子さんは紙芝居や書籍刊行のほかに、香里ヶ丘の末広公園に「在りし軍国少女 非戦の誓い」の碑を建立する活動にも参加しています。香里製造所に学徒動員された女学生たちの悲しみや苦しい体験を風化させないために、非戦の願いを込めたモニュメントを残すべきだという考えのもと、平成20年に建立されました。この石碑の近くには香里製造所のボイラーの煙突が残されており、枚方市はこの煙突を「不戦と平和」のシンボルとしています。

戦後80年を迎え、戦争経験者の声を通して戦争を知る機会は失われつつあります。こうしたなかで、この紙芝居のように平和教育のために作成・使用された資料や、戦争経験者によって執筆された書籍・雑誌などが、次の世代へ戦争を伝えるものとして今後さらに重要となっていきます。今を生きる私たちは、過去の戦争を教訓とし、後世に伝えていかなければなりません。

イベント  
開催予定

◆お知らせ◆

イベント名	開催日
輝きプラザきららで開催します	
① 市内遺跡発掘調査報告会	3/21 (土)
② 文化財展示会 「考古学からみた地域史・くずは」	3/21 (土) ~ 11/23 (月・祝)
旧田中家鋳物民俗資料館で開催します	
③ ちょこっと展「みんなの文字」	開催中~3/22 (日)
④ 七宝講座「春を待つ桜」	3/19 (木)
⑤ わくわく！子ども鋳造体験	3/24 (火)
中央図書館で開催します	
⑥ 古文書入門講座 (全5回)	6月 (予定)

◆ちょこっと展「みんなの文字」

民具には筆書きの文字、彫られた文字、印刷した文字など、様々なかたちの文字があります。文字があることによって年代や製造者、所有者など、ものの来歴を知る手がかりになります。また民具の文字には宣伝効果があるものもあります。

今回の展示では、民具の文字を読むとともに、文字が担った機能を紹介しています。

